

2018EWC/EWCA International Conference, August 23-25 Seoul, Korea に参加して

EWCA 東京チャプターリーダー・筑波大学名誉教授

星野靖雄

2018EWC¹⁾/EWCA²⁾ International Conference 8月23-25日の前日8月22日にEWCAの48チャプターのリーダーのためのワークショップがあり、筆者も東京チャプターのリーダーとして、申し込みは遅れたのであるが参加した。

このワークショップにはEWCやEWCAのボードメンバーや米国とアジア太平洋にある48チャプターのリーダーが40数名参加していた。日本の4チャプターからは、沖縄チャプターリーダーの仲地清 名桜大学名誉教授、関西チャプターリーダーの新田文輝 吉備国際大学名誉教授と当方の3名で、名古屋チャプターリーダーの塚田守 椋山女学院大学教授だけは欠席であった。参加者は席順で機械的に3グループに分けられた。当方は仲地さんと同じ第2グループの7人で議題を討論しDana Cadyさんが提案と概要をまとめ全体で発表した。その内容を文書化したものをAppendix1で添付する。

その概要は、EWCがすべての同窓会をEWC活動の連絡の第一の拠点として認識し、大使館と同時に同窓会に情報が伝達されるようにする、特に、APLP等の新グランティアーについては、その情報を同窓会に確実に伝達してほしい、グランティアーの更新した情報を提供してほしいということを要望した。また、各チャプターの運営の実態を紹介し、役員任期や数はチャプターにより異なっており、沖縄チャプターが新グランティアーに\$200を提供していることも分かった。

午後は、在韩国アメリカ大使館に招待されており、バス2台で出かけた。大使の挨拶とレセプションがありHarry Harris大使と懇談ができた。大使のご母堂は神戸生まれの日本人で、大使は横須賀生まれで、第24代アメリカ太平洋軍司令官であり、アメリカ海軍史上初の日系大将であり平時での最高の階級である。³⁾ また、新田文輝関西支部チャプターリーダーがウクレレを弾いて3曲歌われたのは印象的であった。

8月23日には、名誉実行委員長PARK, Myung-Seokの挨拶(代読)、共同実行委員長KIM Won Nyon, EWCAソウルチャプターリーダー、そしてRichard R. Vuylsteke, EWCセンター長の挨拶があった。コーヒブレイクの後は、3つの文化ワークショップ、1. 韓国書道、2. 韓国伝統の服装、3. 韓国の茶道のうち1つを選択して参加した。昼食後のセッションは1A Interculturalism: Exploring Possibilities for a New Culture Beyond East and West, 1B, Smart Cities : in the Asia-Pacific Region, 同時パネルセッション1では、1.1 Keeping Up with the News、1.2 Roles, Rights, and Responsibilities for Women and Children, 1.3 Educating Global Changemakers、1.4 Language, Literacy, and Education, 1.5. Glimpses of Asia, 1.6 Sustainable Practices であった。1.4のLanguage, Literacy and

Education では、沖縄の Ishida 中学の Mayumi Miyagi 先生と Mawashi 中学の Seiko Kinjo 先生の Reading Activity for Collaboration and Communication: Developing Students' Collaborative Literacy の発表があった。英語で自分の意見を発表し交流するための英文の読解力を共同で、コミュニケーションを取りながら強化する具体的な例を提供している。1.5 の Glimpses of Asia では、関西チャプターのリーダーでもある新田文輝吉備国際大学名誉教授による Contemporary Japan at a Crossroad to Multi-ethnic Society ? の発表があった。日本での混血児が毎年約 2 万人ずつ増加しているが、その中でも、ハーフと呼ばれる日本人と白人や黒人との混血のモデル、パーソナリティ、マスメディアでの活躍の実態とアイデンティティーについてインタビュー調査の概要を発表した。

6:30 からは、レセプションと文化交流であった。

8 月 24 日は、午前中のセッションで 2A Northern Sea Route and New Economic Map Initiative of Korean Peninsula, 2B Crossing Turbulent Waters if Financial Markets Ahead, 2C Diplomatic Roundtable in the Asia-Pacific Region: Globalization vs. Regionalism であった。この 2C のセッションは司会が、Sung Chul Yang 前駐米韓国大使、パネリストが、James Choi 在韓オーストラリア大使、Harry B. Harris 在韓米国大使⁴⁾ Yasumasa Nagamine (長嶺安政) 在韓日本大使、Yip Wei Kiat 在韓シンガポール大使であった。長嶺大使は在韓 2 年であり在米経験もあり、EWC の訪問の経験もあるとのことであった。日本のグローバルイゼーションについては、肯定的な日本人が多く、日本経済については、アベノミクスにより長期にわたるデフレから脱却し緩やかなインフレになっているとしている。外交政策については、インド太平洋圏における平和と繁栄を追及している。G7, G20 においても、移民、貧困、災害等の諸問題を扱い、Harris 大使と同様でルールベースの枠組みで解決できるとしている。

午後の同時セッション 2 では、2.3 Empowering Women: Strategies for the Home, Workplace and Community, 2.2 Next Generation Leadership, 2.3 Re-Proposal of the Asia Pacific Center in Okinawa, 2.4 Partnership for Youth :Shaping Community Revitalization and Sustainability, 2.5 Healthy Aging, 2.6 The Global Village Soundscape: A Nature of Cultural Encounter の 6 つであり、当方は 2.3 の沖縄でのアジアパシフィックセンターの設立の再提案に出た。セッションの議長と司会は沖縄チャプター会長の仲地清名桜大学名誉教授であった。過去の EWC の Conference では 2004 年の東京大会で仲地さんが沖縄での北南センターの設立提案をし、2011 年の北京 Conference で沖縄の国際関係のソフトパワー、2014 年の沖縄 Conference でアジアパシフィックセンターの提案をし、2016 年のマニラ Conference でも沖縄でのアジアパシフィックセンターを提案し、今回で 5 回目となる再提案とのことであった。ハワイにおける EWC に対応して、沖縄における Asia Pacific Center の設立は十分な意義は考えられるが、この資金の調達を国にお願いするという事は、実現の可能性が高いとは思われない。既に、日本政府が供与し

ている沖縄への EWC 関連の学生向けの奨学金を支給している Obuchi Scholarship⁵⁾ があるし、沖縄には沖縄科学技術大学院大学 (OIST, Okinawa Institute of Science and Technology Graduate University) がある。この大学院大学は 5 年一貫の博士課程を置き、教員と学生の半数以上は外国人で⁶⁾ 教育と研究は全て英語で行う、世界最高水準の科学技術に関する研究教育を行う 2012 年に設立された機関である。OIST に不足している分野は、経済学、経営学、心理学等の社会科学や人文科学等であるので、これを増設する要求の方が実現の可能性がより高いと思われる。あるいは、実質的に大学と同様な役割を担うセンターの設立は、民間の資金を中心として、例えば人口過密の都市近郊でなく、大分別府に設立し成功を収めている立命館アジア太平洋大学のような私立大学の誘致が沖縄にも可能かもしれない。このセッションでは、琉球大学の堤純一郎教授、埼玉大学の渋谷百代准教授、沖縄キリスト教学院大学の山里恵子名誉教授、ハンガリーのブダペストビジネススクールの Judit Hidasi 教授も発表された。同じ時間帯の 2.4 の Partnership for Youth: Shaping Community Revitalization and Sustainability では、東京大学の三河内彰子特任助教と東大の学部生である丸川海音氏がパネリストであった。2.5 の Healthy Aging では、西川敏之駿河台大学名誉教授が Reviewing Japan's Unfinished Healthcare Reform- its Problems and Future Directions の発表をされた。

午後の 1 時 30 分からは、半日ツアーがあり、ソウル市内の KPOP のビル、大韓仏教の曹溪宗の寺院、サムソンビルを見学した。

この日の夜には、ハワイ大学のレセプションがあり、ハワイ大学の学長・同窓生がフラダンスを披露された。

8 月 25 日は午前のセッション 3 で、East and West: A Delicate Balancing Act, セッション 4 で Collaboration Building for the Asia-Pacific Community, 同時パネルセッション 3 で、3.1 Culture and Performing Arts, 3.2 Meet & Great the Newest Asia Pacific Leadership Program(APLP) Cohort- Generation 18!, 3.3 Entrepreneurship in Asia, 3.4 New Approach to Education, 3.5 Science and Practice in Creating Sustainability, 3.6 Cooperation and Performance of Cultural Peace の 6 つがあった。3.4 の New Approach to Education では、青山学院大学名誉教授でもある外池滋生ハワイ大学言語学部訪問研究者が議長/司会をされていた。3.5 の Science and Practice in Creating Sustainability では東京大学で研究者をされている David Nguyen さんが Collaborative Adaptation Planning and Coastal Tourism Destination の発表をされていた。3.6 の Cooperation and Performance of Cultural Peace で、東京外国語大学のポストクの研究員である Purna Bahadur Karki さんが Armed Conflict and the Peace Process in Nepal を発表された。

午後の、同時セッション 4 では、4.1 Diverse Arts Programming at the East West Center, 4-2 Explorations in Ethics, 4.3 Building Resiliences in Families and Communities, 4.4

Negotiating Differences, 4.5 Enhancing Cooperation, 4.6 Leadership Outreach Initiative (LOI) Information Session が行われた。

午後 4 時からの EWCA Executive Board Meeting と EWC Alumni Membership Meeting には Conference 参加者全員が参加招請されて実施された。そして、6:30 よりフェアウェル/アロハ バンケットと同窓生のタレントショウがあった。

日本からは、京都外国語大学講師の古橋政子さんと前述の新田先生であった。久しぶりにお会いしたのが、愛媛から International Conference 連続 9 回参加の村上水軍末裔の村上嘉一さんと沖縄からの照屋 Fumio さんであった。

また、EWC と直接は関係ないのであるが、古橋先生の友人として吉田卓大阪学院大学外国学部長・教授が参加され、東京チャプターの会員である久米昭元 元立教大学教授やパートナーである長谷川典子北星学園大学教授、運営委員でもある外池一子さん、白田佳子 筑波学院大学客員教授の参加があった。また、APLP の関係者である小宮山理恵子 東京学芸大学客員准教授や静岡県庁の小池大慈さんにもお会いした。

当方が、2010 年に沖縄の同窓会に参加した際にお世話になった当時の沖縄同窓会の会長高山朝光さんは別の会合に参加ということで名札はあったが欠席で、関西チャプターの岡本由美子 同志社大学教授は体調不良とのことで欠席であった。この、2018 International Conference への参加者数は約 350 人であるが、日本で研究している外国人 2 人を含め、日本からは 32 人で、5 組は配偶者同伴であり、今後も増加することが期待される。

最後に、日本における 4 つのチャプター間では、各種の会合情報をチャプターリーダー等を通じて相互に交換すること、スカイプでの会合の実施を検討することを話し合った。また、日本全体の 4 チャプターとバリの 5 チャプター間での会合を来年実施してほしいという提案がバリのチャプターリーダーの Arianto 博士よりあり検討課題である。

また、バングラデシュチャプターの活動内容が EWC/EWCA の賞を受賞されており、その発表の概要(Appendix 2)ではコミュニティー開発について、近隣の若い大学の教員に英語を教える、災害にあった家族を助ける、貧困家庭に少額の投資をする、ボランティア組織により運営されている学校をサポートする、近隣諸国の同窓会組織と会合を持つ等の活動を実施している。社会に対するボランティア活動を同好会で実施するのは東京チャプターでは少し先の話になるかもしれないが、最後の近隣諸国の同窓会組織との会合を実施するのは可能である。バリの話を含めて検討したいと思う。

EWC/EWCA の International Conference へは、Fulbrighter も参加資格を正式に認めており、日本 EWC 中部同友会と名古屋フルブライト・アソシエーションは講演会、懇親会を合同で 2009 年 11 月より実施している。同様の試みが、他の日本の 3 チャプターで、あるいは、他の国・地域で実施されるのを期待したい。

注

1) EWC は The East West Center の略で、米国とアジア太平洋の人々と国家のより良い関係と理解を促進することがミッションである。1960 年に米国議会により設立され、独立した、公的な非営利組織であり、米国政府、個人のエイジェンシー、個人、財団、企業、地域の政府より資金を受ける。18 人の国際的なボードメンバーにより統治され、日本のサントリー社長新浪剛史氏はその一人である。会長は Richard R. Vuylsteke 博士であり、研究、教育、開発等を行う。

2) EWCA は East West Center Association の略で、East West Center に関連した学生、学者、専門家等の 166 か国 65,000 人の国際的なネットワークで、12 人の国際的な執行ボードメンバーがおり、日本からは沖縄キリスト教学院大学の山里恵子名誉教授がメンバーである。

3) ハリー・B・ハリス・ジュニア、ウィキペディアより。

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%8F%E3%83%AA%E3%83%BC%E3%83%BB%E3%83%BB%E3%83%8F%E3%83%AA%E3%82%B9%E3%83%BB%E3%82%B8%E3%83%A5%E3%83%8B%E3%82%A2>

4) Harris 大使の話は EWC の HP に掲載されている。<https://www.eastwestcenter.org/>

5) Obuchi Student Scholarship <https://www.eastwestcenter.org/education/obuchi-student-scholarship> 小渕沖縄教育研究プログラムは、NPO 沖縄語学センターで募集している。<http://www.okilc.org/eastwestcenter> 2000 年の主要国首脳会議を契機に、日米両国政府の共同プログラムとして設立され、これまでに 50 名位の大学生、研究者等がハワイ大学やイーストウエストセンターに派遣されたとある。

6) <https://www.oist.jp/ja/page/about> 実際には 2018 年 5 月時点で、日本人教員比率は 39% であり、博士課程学生比率では 16% で 156 名/ 39 か国・地域である。

参考文献

East West Center, 2018 EWC/EWCA International Conference ABSTRACTS, 2018

East West Center, 2018 EWC/EWCA International Conference PROGRAM, 2018

星野靖雄 2013、フルブライト・アソシエーションについて、愛知大学国際問題研究所紀要 Vol. 141, PP. 103-106,

Appendix 1. A Proposal of Group 2 with seven members

EWC Workshop, Wednesday 22 August 2018

Dana Cady

Group 2 Development: How chapters develop better leadership and governance?

- Refine nomination/volunteer process?
- What are the “core” leadership positions needed for success?
- Substantial committee participation?
- Are leadership term limits an issue or not?

Overall Points

Important to remember all alumni organizations are different and operate in different environments so EWC MUST get to know each chapter, its committee, and people.

EWC is the umbrella for alumni groups, so...

1. Alumni organizations should be the first point of contact for EWC activities because if alumni groups are bypassed, it delegitimizes alumni organization
2. EWC information on scholarships and activities/policies should not just go to Embassies but also to alumni groups simultaneously to leverage the deep expertise and networking connections of alumni group leadership
3. EWC needs to update and provide accurate list serve email/contact lists so that alumni leadership can be more effective
4. As it does with APLP, the EWC should send profiles of new EWC alumni to chapters, which could strengthen networking connections and opportunities.
5. All new EWC grantees should meet with the home chapter before they head to the EWC and afterwards present on their research and/or outcomes after end of the program to the home alumni chapter

Organizational structure

Organizational structure of alumni groups are important but should not be mandated to one type of organization. Some aspects of structure are helpful:

- By-laws
- Templates from EWC
- Positions listed/financial structure
- Positions
 - Need to have someone involved who can get things done.

- President/chapter leader, Secretary, Treasurer, Executive Committee Members-at-large
- Dues
 - One-time annual fee or no regular fee but contributions according to specific activities
 - Fund Raising/Scholarships
 - Ex. Okinawa chapter collects \$200 for student scholarships – identifies student, gives funds to EWC which then gives to student for attendance at EWC conference or study

Examples of each chapter in group:

APLP

- Cohorts
- Generational reps
 - 8 of 17 Generators on board
 - 33-35 average age on board
- Call for volunteers
- Connect through social media - Important for managing info flow
 - Skype every month
 - Quarterly informational newsletter including reports of the chapter to EWCA
 - EWC staff member attends skype meetings to keep connections alive

ASDP:

- 8 member board (Pres, VP, Sec, Tres, 3 members-at-large, past pres ex officio)
- 2 to 5 year terms depending on position

Bangladesh

- 10 member board
- 3 year terms of committee since its establishment (No change since its establishment)
- No regularly scheduled meetings but meet whenever required for specific purpose
- Normally 4-5 members are present

Indonesia

- Difficulty finding volunteers because younger generation have families and jobs

Myanmar

- 7 committee members
- 4 year terms
- Elections
- difficult to contact folks
- Meet every month 10-15 people; 40-50 alumni in country

Okinawa

- 1 term only

Tokyo

- 11 member board
- 2 year terms

The Alumni Chapters look forward to connecting more deeply with the EWC and sharing their expertise, resources, and encouragement to initiatives and oppor

Appendix 2. Chapter's Community Development Projects

Bangladesh Chapter Leader Dr. Abu A. M. Ekramul Ahsan

1. Teaching English to young college teachers (Eden Girls College, Dhaka),
2. Support to vulnerable rural families affected by natural calamities (flood, cyclone) for relief and rehabilitation in helping house repair, providing small funds for agricultural rehabilitation to the affected families to buy seeds and fertilizers etc. (Kurigram district)
- 3 Distributing warm clothing to the poor children in winter (Netrokona District, photo).
4. Support to sustainable livelihood options through small capital investment to poor families (Najma, Moushumi, Ekramul Ahsan and late Khaleda contributed).
5. Support to rural society in helping schools run by voluntary organization
6. Meeting EWC alumni in the neighboring countries (India, Nepal, Srilanka).

写真1. 左から星野、Yang 前駐米韓国大使、Lee 西京大学教授、右端が Bajrachrya ボン
ド大学准教授





写真2 左より

仲地名桜大学名誉教授、Arianto 博士、星野、新田吉備国際大学名誉教授

写真3. 左より Harris 駐韓米国大使、星野、Arianto 博士

